

道徳通信

～ あの日 生まれた命 ～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和3年12月8日

黄ブロック職員



東日本大震災の被災者への支援プロジェクトを巡る実話を通して、家族の大切さ、生命の尊さについて考えました。

2011年3月11日、真奈ちゃん（仮名）は誕生しますが、その数時間後に激しい地震に襲われました。震災によって祖母を失ったお母さんは、子供の誕生を素直に喜び気持ちになれない複雑な思いを抱え続けました。そんな中、1歳の誕生日に、北海道の“希望の『君の椅子』”プロジェクトから、「生まれてくれてありがとう。君の居場所はここにあるよ。」という思いが込められた木製の手作りの椅子が贈られました。どんな状況でも、新しい命の誕生は喜ばしいもの。お母さんは、子供の誕生を素直に喜んでいいのだと思えるようになりました。

●● ●● さん

傷ついた人は、居場所を与えられることによって前向きな気持ちになれると思いました。また、人と人で励まし合うことで命を尊重していると思いました。今後は、このプロジェクトの人たちのように、居場所を与えて、助けてあげられる存在になれたらいいなと思いました。

●● ●● さん

生まれてきたことに感謝したい。

●● ●● さん

自分の命、家族の命、友達の命、みんなの命を大切にしていこうと思いました。

●● ●● さん

命を大切にするということは、ただ単に守ったり、大切にしたりするだけではなく、生まれたことに対しての感謝や、生きるための希望にもなると思った。

●● ●● さん

「命は大事」と漠然とした思いや考えはあるけど、「大切だから何をするのか」はあまり考えたことがなかった。「それぞれの命」＝「それぞれの心」と自分は考える。心の色がみんな違うように、たどってきた道が違うのだから、命の色だって違う。「命を大事にする」とは、「個性を大事にする」と似たような意味かなと考えた。

●● ●● さん

災害一つで嬉しいことも素直に喜べなくなるんだなと思った。普段やっていることは当たり前ではないと改めて感じた。

●● ●● さん

「命を大切にする」ということは、その人自体を尊重することだと思う。何かを大切に思うには、それに寄り添ったり、そのものを敬ったりする必要があると思う。自分が生まれたことを当たり前だと思わずに、大事にしてほしいなと思った。当たり前のことが当たり前に出ることがすごいことだと思うので、感謝の気持ちを忘れないことも大切だと思った。

●● ●● さん

命を大切にすることで、まわりの人を幸せにできると思う。自分が存在するだけでも親、祖父母、親戚が幸せに生きることができるから。自分が生まれたことに感謝して生きていきたい。

「生まれてくれて ありがとう」

